

第七章「ここから（仮）」（化城論品第七）03

著作権等は仏教学こころの研究所に帰属します。無断での複写・転用・引用などを禁じます。

出版前の原稿ですので、取り扱いには十分お気をつけください。皆様のご協力、ご理解のほど、宜しくお願い致します。

頁	読み下し文（平楽寺本）	偈	研究所 訳
162-3	時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し繞ること百千・して、即ち天華を以て仏の上に散ず。所散の華須弥山の如し。竝に以て仏の菩提樹に供養す。華の供養已って、各宮殿を以て彼の仏に奉上して、是の言を作さく、唯我等を哀愍し饒益せられて、諸献の宮殿願わくは納処を垂れたまえ。爾の時に諸の梵天王、即ち仏前に於て一心に声を同じゅうして、偈を以て頌して曰さく、		認めるや、その尊い人・仏の居られるところへと、大梵天たちは近づいていきました。近づいて行き、尊い人・仏の両足に頭をつけて挨拶をし、周りを右まわりに一度ならず数百千回巡り、須弥山ほどの量の華の花冠をその尊い人・仏の上に降り注ぎ、そして十由旬もの、かの菩提樹にも降り注いだのでした。そのように花を降り注ぎ、そしてそれら梵天の空飛ぶ宮殿を献上したのでした。『お受け取りください、尊い人・仏よ、お使いください、これらの梵天の空飛ぶ宮殿を、わたしたちをお慈しみくださるのなら。必要とされるでしょう、成就者・仏よ。これらの梵天の空飛ぶ宮殿を私たちの同じ思いをお受け頂いて。』さて、比丘たちよ、かの大梵天たちは、それぞれ、彼らの空飛ぶ宮殿を、その尊い人に贈らせてから、さて、そのとき、その尊い人に向き会い、次のごとき、詩によって褒め称えたのでありました。
162-9	聖主天中天 迦陵頻伽の声をもって 衆生を哀愍したもう者 我等今敬礼す	31	あなたに敬意を表します／比類なき偉大な聖仙／神がみの中で／最もすぐれた神・仏よ／カラビカ鳥のように美しい声を持つ／神がみをも含む世間の指導者・仏よ//わたしは／世の幸せのために／憂いと慈しみの心とを具えたあなたを／尊敬いたします(31)

162-10	世尊は甚だ希有にして 久遠に乃し一たび現じたもう 一百八十劫空しく過ぎて仏いますことなし	32	指導者・仏よ／未曾有なるあなたは／時に ところを得て／今日／極めて長い時を経て／世に現われました//多くの劫が満了し／百八十劫の間／この生きるものの世間には／仏たちは不在でした(32)
162-11	三悪道充滿し 諸天衆減少せり 今仏世に出でて 衆生の為に眼となり	33	そして 二本の足にて立てるもの人間／その中で最もすぐれたる者・仏たち／が不在だったので／そのとき／悪しき境界は／増大するのであった//さらに／百八十劫もの長い間／天界の者たちは／離れていったのです(33)
162-12	世間の帰趣する所として 一切を救護し 衆生の父と為って 哀愍し饒益したもう者なり	34	かの人・大神通智勝は／今や／わたしたちの眼であり／帰趣であり 拠り所であり／保護者であり 父であり／同時に 親族であります//
163-1	我等宿福の慶あって 今世尊に値いたてまつることを得たり		慈しみ深い／かの法王・仏は／わたしたちの福德により／この世に現われました(34)
162-3	爾の時に諸の梵天王、偈をもって 仏を讃め已って、各是の言を作さく、唯願わくは世尊、一切を哀愍して法輪を転じ衆生を度脱したまえ。時に諸の梵天王、一心に声を同じゅうして、偈を説いて言さく、		そのとき、比丘たちよ、彼ら、大梵天たちは、その尊い人、大神通智勝如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人・仏を目の当たりにし、このような美しい詩によって称賛してから、その尊い人・仏に申すのであった。『転じてください、尊い人・仏よ、教えの輪を。世に転じてください、成就者・仏よ、教えの輪を。示してください、尊い人・仏よ、静謐の境地を。お済いください、尊い人・仏よ、生きとし生けるものたちを。歓ばせてください、尊い人・仏よ、人びとを。説き示してください、教えの主である尊い人・仏よ、その教えを、この世のために。梵天もいる、魔もいる、出家者も婆羅門もいる、神がみや人びと、阿修羅もいる、この生きとし生けるものたちのために。それは、多くの人びとのためになり、幸せをもたらすことでありましょう。世の中を憂えられ、群れ居る神がみや人間たちの役に立ち、ためになり、幸せをもたらすことになるでありましょう。』そして、比丘たちよ、五百万コーティ・ナユタもの梵天たちが、声を揃えて唱和し、その尊い人・仏に向かい次のような二つの美しい詩を詩って語りかけるのであった。

163-6	大聖法輪を転じて 諸法の相を顕示し 苦悩の衆生を度して 大歡喜を得せしめたまえ	35	転じてください／最勝の輪を／偉大なる聖者よ／十方に 法を／説き明かしてください//導いてください／苦によって苦しめられた／生けるものたち (sattva) を／歡喜を生ぜしめたまえ／生きとし生けるものたち (dehin) に(35)
163-7	衆生此の法を聞かば 道を得若しは天に生じ 諸の悪道減少し 忍善の者増益せん	36	それを聞いて 彼らは／気づくことができる者となるでしょう／そして 天界にまでも／歩み続けるでしょう//さらに すべての阿修羅の身体をも／捨てるでしょう／そして／清浄であり／柔和である者たちは／安樂を得る者となるでしょう(36)
163-9	爾の時に大通智勝如来、默然として之を許したもう。		そのとき、比丘たちよ、その尊い人・仏は、彼ら大梵天たちに対し、黙して応ずるのであった。
163-9	又諸の比丘、南方五百万億の国土の諸の大梵王、		そして、また、そのとき、比丘たちよ、南の方角にある、五百万コーティ・ナユタもの世界において、梵天の空飛ぶ宮殿が一際輝き、照り映え、明るく、気高く、威光を放っているのであった。
163-10	各自ら宮殿の光明照曜して		
163-10	昔より未だ有らざる所なるを見て、歡喜踊躍し希有の心を生じて、		そこで、比丘たちよ、大梵天たちは思うのであった。<梵天たちの乗り物・宮殿が一際輝き、照り映え、明るく、気高く、威光を放っている。これは何の前兆なのであろうか>と。
163-11	即ち各相詣って共に此の事を議す。何の因縁を以て、我等が宮殿此の光曜ある。而も彼の衆の中に一りの大梵天王あり、名を妙法		そして、比丘たちよ、それら、五百万コーティ・ナユタもの世界における、大梵天たる者たちは、たがいの住まいを訪れ、語りあうのであった。さて、そのとき、比丘たちよ、善法という名の大梵天が、梵天たちの大集団に、二つの美しい詩を詩って語りかけるのであった。

	という。諸の梵衆の為に偈を説いて言わく、		
164-2	我等が諸の宮殿 光明甚だ威曜せり 此れ因縁なきにあらじ 是の相宜しく之を求むべし	37	友よ／原因が無いのではない／理由が無いのではない／今 すべての／これらの宮殿が輝いているのは //何故 この世に／しかるべき前兆が／見せられるのであろうか／善く この意味を／我らは求めよう(37)
164-3	百千劫を過ぐれども 未だ曾て是の相を見ず 大徳の天の生ぜるとやせん 仏の世間に出てたまえるとやせん	38	実に／ゆうに／百劫が過ぎ去ったが／このような前兆は／決してなかった//ここに／神子が／生まれたのであろうか／この世に／仏陀が生まれたのであろうか(38)
164-5	爾の時に五百万億の諸の梵天王、宮殿と俱に、各衣・を以て諸の天華を盛って、共に北方に詣いて是の相を推尋するに、大通智勝如来の道場菩提樹下に処し師子座に坐して、諸天・龍王・乾闥婆・緊那羅・摩・羅伽・人非人等の恭敬圍繞せるを見、及び十六王子の仏に転法輪を請ずるを見る。		さて、比丘たちよ、そうした五百万コーティ・ナユタもの世界には、大梵天と呼ばれる者たちがおり、彼らの悉くが打ち揃い、神ごうしいそれぞれの梵天の空飛ぶ宮殿に乗り込み、須弥山ほどの量の天の花冠を携え、東へ西へ南へ北へと巡りながら、探りながら、北の方角へと進んでいった。そして、見たのだ、比丘たちよ、かの大梵天たちは、北の方角に、尊い人・大神通智勝如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人・仏を。最上のさとの座におられる、菩提樹の下の獅子の座に坐っておられる、神や龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、摩睺羅伽など、人や人以外のものたちと十六人の息子である王子たちにより、囲まれ、敬まわれて、教えを説いてくださるよう請われている、その人を。